

「医療科学」第2版

江川 寛 監修
鈴木 信 編集
信川 益明

東海大学医学部長

黒 川 清

急速な少子高齢化、公衆衛生と生活パターンの変化、更に疾病構造の変化とともに、医療の重点とあり方は変わった。更に輪をかけて経済成長の低迷は、1965年に導入されて以来、経済成長とともに機能してきた国民皆医療保険制度のあり方にも大きな課題を投げかけている。更にヒトゲノムの解析に代表されるような生命科学の急速な進歩は、医学と医療の見方、方向、あり方に大きな方向性を示唆していると言えよう。医療は“cure”から“care”へ、そして生活の習慣への対策導入による疾病の予防対策が医療費削減への重点課題の1つになってくる。交通と情報手段の急速な発展は、グローバル、ボーダーレスの情報公開の流れをもたらし、社会の医療に対する期待と医療人の倫理の社会的価値判断が国際化してくることが予測される。このような多次元にわたる変化の時代背景から、医学教育の現場での医療科学の重要性が増している。

江川寛・監修、鈴木信、信川益明・編集になる「医療科学」第2版が初版以来5年ぶりに出版された。上に述べたような医療の変革期を迎えて、“医療を科学する”タイムリーな企画と言える。社会構造と医療の需要、医療関係法規、医療と行政、社会保障、医療資源と供給体制、ヒューマンリレーション、医療情報、医療管理、医療における意思決定、医療評価などの広い範囲にわたる解説と話題が丁寧にされていて、事典のような使いやすさがありそうである。更に医療関連の行政と法規の記載は、年々変化していき、更に複雑になりがちな医療の現状の理解の手助けになると思われる。また、いくつかの外国での制度の解説、また日本の医療の歴史の解説も、普段は考えないかもしれないが現在の日本の医療制度のあり方への背景を理解させよう。

本書は“医療科学”とはいえ、“病院管理学”教育を背景にして出発したものであるが、その枠を越えて、

現代の常に変化する医療のあり方を見据えて、「医療科学」としたいきさつがあると、編者の解説にある。もっともなことである。著者はこのような背景と分野を代表する専門家から成っている。

このようなトピックスは医師のみならず、すべての医療人が日常的に理解していなくてはならないことである。将来の臨床診療にも必要な事項が数多く含まれており、これらの話題の少なくとも一部は医学総論の一部として医学教育でも一定の時間が割かれることも必要であろう。本書に著されている“医療科学”の分野は、医師に限ったことではないが、臨床研修の現場で実践的な研修を通じて習得していきたいものである。著者、編者のご努力に敬意を表したい。

● B5 頁384 図93 表79 2000
定価(本体5,200円+税) 送料実費

—医学書院 刊(☎03-3817-5657)